「がんばろう 日本！国民協議会」埼玉読者会 ７月

2024年
第７号

自立した主権者をめざして

Vol.44 「普通」以外を排除する社会

KEYPOINT

- あなたは社会的な課題について日ごろ考えていますか？
- また、考えていることについてどんな活動をしていますか？

SUMMARY

「クルド人」問題を抱える川口市では、何か時間が起きるとまず「クルド人が犯人」との不確定な情報が SNS で拡散されることが増えています。これは、100 年前の関東大震災で「朝鮮人が井戸に毒を入れた」等と触れ回った挙句の大量虐殺事件と似たような行動です。100 年過ぎても変わらない「わからないことを排除する」動きは、いったいどうしたらなくなるのでしょうか。

お 知 ら せ

（7 月 1 日発行）1 面論文について、構成や流れや受け止め方等をコメントする場を YouTube チャンネルで配信していますが、7 月は事情によりおやすみいたしましたので、配信はありません。

公的な場での差別文書は差別の連鎖を起こす

令和５年、川口市の６月議会で、「一部外国人による犯罪の取り締まり強化を求める意見書」が可決されました。これは、トルコの少数民族クルド人の一部と地域住民との間に軋轢が生じている問題に対応すると考えられるもので、「クルド人」と名指してはいないものの、「彼らを念頭に置いた議論だった」と後に賛成した川口市義の大半の方が明かしています。

クルド人は家族や親戚など大勢で集まる習慣があるため、夜間などの集会で不必要な誤解を受けることもあるようです。また実際、少数ですが窃盗や傷害、ひき逃げなど実際に法を犯すこともあります、しかし、夜間の騒がしさに関しては話し合いの余地はあります。実際夜回りをして注意を促し、共生に向けた努力をするグループや、ゴミ出しのルールをトルコ語で伝えるなどの努力をしている日本人も沢山います。「クルド人の犯罪」と決めつけられている事件についても、クルド人ではなかったり、場合によっては日本人だったりということもあります。取り締まり強化を希望する人々には、**言葉の通じない、文化の違う人たちが騒いでいる＝怖い＝犯罪者だ＝いなくなってほしい**という図式が出来上がっているのかもしれません。

取り締まられるべきは「犯罪行為」であって、日本人ならば罪を犯しても良い、ということではありません。しかし、意見書に「一部外国人」と表記されていることからは、「外国人に対する差別」意識を公然と披歴したものです。

「一部外国人による犯罪の取り締まり強化の意見書」から判断出来る差別感

あらためてこの意見書を読んでみると、文章をつくった人たちの差別的な考え方がにじみ出ています（詳しくは川口市の公式サイトに意見書として載っています）。まず、**「一部外国人」**の、この**「一部」**という曖昧な表現が、具体的にどの程度の人数や状況を指しているのかが不明確なため、外国籍の住民全体が問題であるかのように受け取られるリスクがあります。**「多くの外国人は善良に暮らしているものの、一部の外国人は…」**という記述も、外国人を犯罪行為と関連付ける印象を与えます。続けて**「地域住民の生活は恐怖のレベルに達しており」**という表現は、外国人が治安に対する脅威であると感じられ、外国人に対する恐怖や不信感を煽ることになりかねません。

他にも問題の解決策として警察力の強化を要望している点、「一部外国人」のために「善良な外国人」に対する差別や偏見が生まれると表現している点など、一定の気遣いが見られるものの、治安維持を優先する視点が強調されているという、人権への尊重が欠落しているとの指摘が相次いでいます。特に、外国人全体に対する偏見を避けようとする配慮を入れてはいても、個々の外国人住民の権利や尊厳に対する具体的な言及が不足して

いるため、人権尊重の姿勢が脆弱と言わざるをえません。

大野元裕埼玉県知事は、8月27日の記者会見で1923年の関東大震災で虐殺された朝鮮人の追悼を巡り、さいたま市で9月4日に市民団体が開く式典への追悼文送付を「前向きに検討している」と発表しました。「デマ情報に基づいて、朝鮮人に対する虐殺があったということについては痛心に絶えないものであります」という知事の発言からは、当時虐殺された朝鮮の人たちの人権に対する配慮を強く感じました。続いた「災害時に県民が不確実な情報で惑わされることがないよう、的確な情報の提供に努めたい」との言葉は、治安維持の視点に立つものでしたが、日本人も外国人もない、県内で生活する人々の安全と、混乱をなくすために私たち全員が自覚するべき課題を提示されています。

差別は無知と先入観から生まれる

川口市が悪くて、知事が素晴らしいという話ではありません。このように、受け取り方次第で「差別」の意識は変わるという話です。差別は、「自分と違うもの」を排除し、同質性のなかで安全に生きたいという本能だという説があります。しかし、それは危険と隣り合わせで生きてきた人類の古い記憶です。今私たちは、言葉、文化、性別や様々な価値観が違っても突然相手が襲ってくるとは考えません。差別を生み出すのは『違い』ではなく『無知』と『先入観』です。クルド人は歴史的に迫害されてきた民族ですが、クルド人が日本で「難民」認定されることが難しい現状から、**難民認定されない＝悪いことをしているから（良い外国人は認定されるだろう）**という先入観と、日本の難民受け入れの事実を知らない「無知」がことさらな差別を生む一つの原因になっています。

人間は、人種や民族・宗教、年齢や障害、外見、ジェンダーや性的特徴、社会的要因など、さまざまな要素が複雑に絡まり合っていて、どれか一つの要素がその人の全体を決めることはできません。先述の意見書のように議会という公の場で差別行為が公然と行われるような事態を避けるためには、市民の考えを変える必要があります。そのためには差別とは何なのかについてもっと考えなければなりません。

経済や社会構造における不公正さ、また社会的な不平等を明らかにし、データを集め、情報を整理し、私たち自身の意識を高めていく必要があるのです。

知る事、考えること、そして対話すること。まっとうな民主社会において、差別や機会の不平等、アイデンティティや出自によって疎外されることを見過ごしてはならないのです。

差別はなくならないかもしれない。しかし、だからといって、なくそうという努力をしなくてよいものではないのです。

〈機関紙「日本再生」No.542の内容〉

フォロワーシップのせり上がりをさらに前へ●3-7面/コラム/一灯照隅●8-14面/囲む会/財政ポピュリズムとは何か/吉弘憲介・桃山学院大学教授●14-18面/インタビュー/欧州議会選挙とEUのこれから/吉田徹・同志社大学教授●19-24面/インタビュー/憲法をめぐる政治と外交/宮城大蔵・中央大学教授

一緒に考えてほしいこと

・あなたは自分の「差別意識」を自覚したことはありますか？

【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所：埼玉県越谷市大里226-1　白川ひでつぐ事務所
担当：吉田理子
ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP　埼玉読者会note

がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義」を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。